様式　1

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	太田　佳宏
論文担当者	主　査　　坂口　太一
	副　査　　新村　健
	副　査　　小山　英則
学位論文名	The differences between conventional lead, thin lead, and leadless pacemakers regarding effects on tricuspid regurgitation in the early phase （ペースメーカリードの種類による、植え込み後早期の三尖弁逆流への影響についての検討）

【背景】ペースメーカ植込み術（PMI）後に三尖弁逆流（TR）の増悪を認めることがある。原因としてペースメーカリードによる弁閉鎖不全や、ペーシングによる同期不全が報告されているが、その詳細は不明である。近年ペーシングリードのないリードレスペースメーカや、スタイレットルーメンのない細いリードが普及しており、リード関連合併症を軽減する可能性があるが、PMI 後の TR との関連については明らかではない。申請者は、従来リード、細いリード、およびリードレスペースメーカの 3 群間で PMI 後早期の TR の変化を検討した。【方法】対象は PMI を受けた 65 人の患者（男性 32 人、79±8 歳、従来の 6.0Fr. リード 29 人、4.1Fr の細いリード 19 人、リードレスペースメーカ 17 人）。PMI 前および 1 か月後に経胸壁心エコーを実施し、三尖弁有効逆流弁口面積(TR EROA)などを測定した。【結果】リードレス群は心房細動が多かった。PMI 前後の比較では、従来リード群でのみ PMI 後に左室駆出率が低下した（p=0.022）。TR EROA はリードレス群（p=0.002）と細いリード群（p=0.001）で減少したが、従来リード群では減少しなかった（p=0.596）。TR EROA の変化は、従来リード群と比較してリードレス群と細いリード群で大きかった（p<0.05）。【考察】従来リードによる右室心尖ペーシングは、左室内同期不全によって左室機能不全や心不全増悪に関与することが報告されている。細いリードは高位中隔ペーシングが可能で、心尖ペーシングに比べ左室同期不全が少ないとの報告もある。本研究では、従来リード群のみ PMI 後に左室駆出率が減少し TR の改善が見られなかったが、リードレス群と細いリード群では左室駆出率は減少せず TR の改善が見られた。徐脈や房室同期不全に伴う TR はペーシングによって改善されるが、従来の太いリードは三尖弁尖との干渉によって TR が減少しなかった可能性がある。【結語】PMI 後早期の TR は、リードレスまたは細いリードを使用した症例で減少した。ペースメーカーシステムとリードの種類は PMI 後の TR の発生に影響を与える可能性がある。

本研究は臨床上遭遇する PMI 後の TR について新たな知見を与えるものであり、学位論文に値すると判断した。